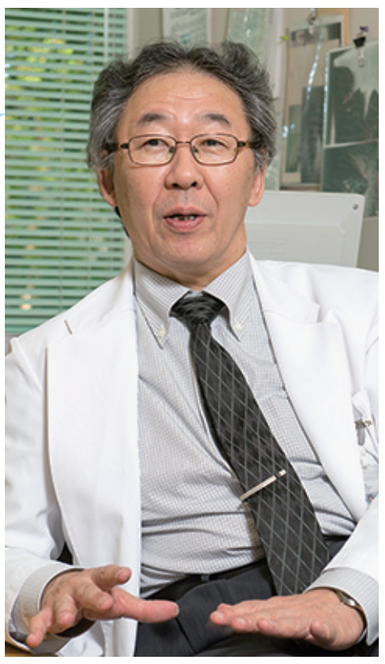
いぶり腎泌尿器科クリニック広報誌
IBULIVE いぶりぶ
いぶり +Live
NO.41 春号

前立腺癌治療の概略ついて

坪院長の健康講座

院長　坪　俊輔



今回は前立腺癌治療の概略についてお話しします。前号で述べましたように、組織検査で前立腺癌と診断がついたならば、癌の悪性度（表―1参照）・癌細胞の量、また直腸診や膀胱鏡所見などを考慮しつつ、CT・シンチグラフィー・MRI等の検査で局所浸潤や遠隔転移の有無について精査します。（前立腺癌は特に骨やリンパ節に転移し易い癌です。）癌の悪性度が軽く、かつ癌細胞の量が僅かで、転移・浸潤がない症例では、近年すぐには治療を開始せずに、前立腺癌の腫瘍マーカーであるPSAの推移等をみながら、もし癌が進行し始めたならば初めて治療を開始する〝PSA監視療法〟が選択される事が多くなってきました。（これは日本人男性の25％ほどに生涯臨床癌に進まないで済む〝潜伏癌〟が見られること、また一般的には前立腺癌の進行はゆっくりしていて、病状が進み始めてから治療を開始しても充分に間に合う事などが根拠になっています。（表―3参照）もし既に局所浸潤や遠隔転移がある進行癌症例で、根治手術の適応はなく、男性ホルモンを抑える内分泌療法を行うのが一般的です。（表―3参照＝前立腺癌は男性ホルモンを抑えることで、進行の抑制が期待できます）

【表1】組織学的悪性度

前立腺癌
- ○高分化
- ○中分化
- ○低分化

↓ より悪性

【表2】臨床病期

前立腺癌
- ○限局癌　周辺への浸潤および転移なし
- ○進行癌　周辺への浸潤およびリンパ節・骨などへの転移あり

【表3】前立腺癌の治療

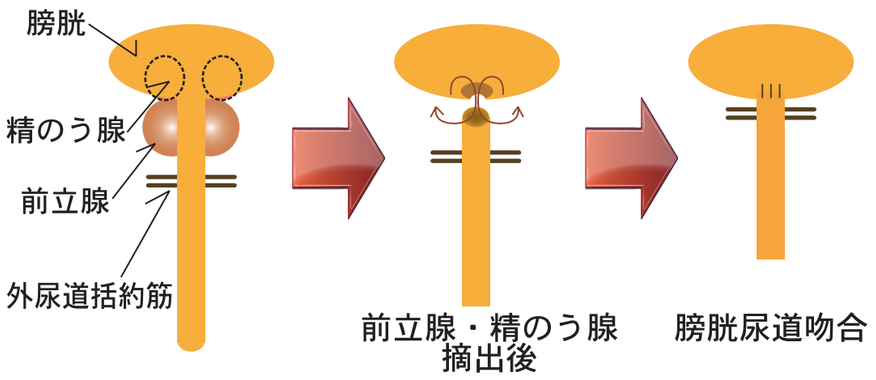
《1》癌細胞の量が少なく、かつ高分化（悪性度が軽い）の場合
PSA監視療法

《2》限局癌
①根治手術
②内分泌療法
③放射線治療

《3》進行癌
内分泌療法
↓
化学療法
＜抗癌剤＞

さて、局所浸潤や遠隔転移のない限局癌〟症例（表―2参照）では根治的前立腺全摘出術〟が唯一の根治治療です。（これは図―1に示すように前立腺と精のう腺を一塊として摘出し、膀胱頚部と尿道を吻合する方法で、開腹手術・腹腔鏡手術・ロボット支援下腹腔鏡手術などがあります。根治性は非常に高いのですが、術後の尿失禁や勃起障害などの問題もあります。）前立腺全摘は、大きな合症がなく年齢70歳以下くらいの方おすすめするのが一般的かと考えております。限局癌の症例でも、体・合併症等から根治手術が難しい考えられる場合には、前述した内泌療法、または放射線治療をおすすめしております。（表―3参照）

図－1　根治的前立腺全摘出術



前立腺癌は高齢の方に多く発症し、また治療方法もいくつか選択できます。癌の根治性、治療後のQ・O・L（生活の質）の変化、体力・合併症・年齢などを考慮して、個々の症例ごとに検討、相談して治療法を決めるのが最善かと思われます。

以上、今回は前立腺癌治療の概略についてお話しました。

院内看護研究発表会開催

手術室主任　石田　真弓

去る２月 12 日、毎年恒例の院内看護研究発表会を開催致しました。12 回目となる発表会には看護スタッフ 32 名が参加、看護部目標でもある「専門性の高い看護の提供で、トータルヘルスケアを目指す」「患者様中心の看護ケアの実践」「地域に密着し、地域に根ざした医療を目指す」を指針とし各部署から日頃の取り組みについて発表し、情報共有や意見交換の場としてとても有意義な時間となりました。

外来は「膀胱鏡検査における内視鏡看護の在り方の検討」をテーマに泌尿器外来で日常的に行われている検査について患者様へアンケート調査を行い、患者様の思いを知ることで、患者様の不安な気持ちを軽減し、寄り添う看護の提供をどのようにしていくのが良いのか改めて考えることができました。

病棟は「アセスメント・スコアシートとフローシートを用いた転倒転落の予防効果と課題」をテーマに、当クリニックでも高齢化が進むなか、入院患者様がより安全な入院生活を送るために、看護スタッフが同じ目線で看護ケアを実践できるよう、ツールを作成し取り組むことで転倒転落への危機意識を高めることができ、リスクマネジメントにつなげることができたことを発表しました。

透析室は「シャントの自己管理意識を高めるために」をテーマに、透析患者様にとっては生命線ともいえるシャント管理についてポスターの制作をし、患者様が日常的に管理できるよう、看護の取り組みについて発表しました。また、透析室では昨年行われた看護協会室蘭支部において、フットケアについての看護研究を発表しており、患者様のセルフケアへの取り組みに力を入れていることを伺うことができました。

いずれの発表も患者様の目線に立ち考えることでより患者様が満足し安心・安全に看護ケアを受け

ていただけるよう取り組んだもので、多様化する医療ニーズに応えていけるよう、今後さらに質の高いケアを目指し、看護スタッフがスキルアップ出来る機会となるよう継続していきたいと思います。

きた食 day コンテスト 2016 に参加　栄養科

当クリニックの応募２作品が同コンテスト作品集に掲載！

平成 28 年 8 月に開催された「きた食 day コンテスト 2016」は、医療・高齢者施設を対象としたもので、安全・安心な北海道産食材の活用による質の高い給食サービスの提供を通じて「医・農商工連携」を促進することにより、「健康寿命延伸」を目指すものです。

今回のコンテストでは医療施設、高齢者施設、合わせて 60 件の応募があり、当クリニックも献立２作品を応募しました。また、応募された献立レシピをまとめた「きた食 day コンテスト作品集」が発行されるに当たり、当クリニックのレシピ 2 作品も掲載されましたので、本号と次号の「いぶりぶ」にも１作品づつ掲載致します。

□料理名　大根めしと伊達産黄金豚の洋風アラカルト

食材費（1 食分）375 円※400 円以下

■献立内容■
○大根めし伊達産黄金豚とパプリカの巣籠り風～ソースを添えて～○伊達産ブロッコリーとトマトの二層仕立て～ムース風～○ペンネチーズクリーム伊達産アロニアを使って○噴火湾産ホタテとズッキーニのマリネ○道産大豆 100％豆腐の味噌汁

□献立１食分の栄養価□

	エネルギー量	たんぱく質	脂　質	炭水化物	塩　分
栄養価	773.0　k cal	27.6　g	25.2　g	105.0　g	2.4　g

伊達産黄金豚とパプリカの巣籠り風～ソースを添え

【材料（１人分）】

●豚肩ロース…50ｇ●食塩…0.2ｇ●料理酒…5 cc●小麦粉…3ｇ●サラダ油…3ｇ●黄パプリカ…10ｇ●赤パプリカ…10ｇ●青ピーマン…10ｇ●春雨…10ｇ
〔玉ねぎソース〕◎玉ねぎ… 30ｇ◎こい口醤油… 3 cc◎料理酒…１cc◎みりん…２cc

【作り方】

①黄・赤パプリカ、青ピーマンは乱切りにする②豚肩ロースに食塩、料理酒をふり小麦粉をつけて焼く③黄・赤パプリカ、青ピーマンを炒める④深めのフライパンにサラダ油を熱し、春雨をレードルに入れ抑えながら揚げ、形を整え籠型に成型する⑤豚肉は一口大の大きさに切り、黄・赤パプリカ、青ピーマンと豚肉を交互に彩りよく盛り付ける⑥添えのソースは玉ねぎをすりおろし調味料を加え加熱したものを冷ます。

【使用した食材】※伊達産：大根・大根菜・三つ葉・ブロッコリー・トマト・ミニトマト・アロニア・パセリ・ホタテ・ズッキーニ・レッドオニオン・黄金豚・青ピーマン・パプリカ（赤、黄）・玉ねぎ・リーフレタス・牛乳※北海道産：木綿豆腐・春雨

【コンセプト】200 種類以上もの野菜を生産する伊達市。その地元伊達産の野菜にこだわり、また、最近注目を集めている伊達産のアロニアと伊達産黄金豚を使用。素材の良さを実感できるように仕上げました。

【工夫】伊達産の良質な大根を使用した大根めしはごま油を風味づけに加える事で、ひと味違った仕上がりになっています。ワンプレートはあえて洋風にし、伊達産ブロッコリーとトマトのジュレをムース風に仕上げ、また、ペンネはアロニアの形を加えることでお洒落な一品となりました。伊達産で生産量の多いホタテは地元産のズッキーニとレッドオニオンと組み合わせ、マリネに。地元産の食材の良さを如何に献立に反映させるかが一番の大きなテーマでした。

column 待合室 No.41

劇場化現象

●携帯電話のＣＭが面白い。先行したのがソフトバンク、主人公家族のお父さんが北海道犬というありえない設定と、奇想天外のストーリーで視聴者の心を捉えた●最近ではａｕの３太郎シリーズのバカバカしさが受けている。古典的な「お伽噺」をモチーフに、商品紹介をパロディーにした内容は秀逸だ。若手の実力派俳優のキャスティングも素晴らしい●両者に共通するのはドラマ仕立てによる「ストーリー性」を重要視し、視聴者の注目度をアップさせること。これによりＣＭの主目的である「宣伝力」を高めるという、常識を度返しした手法を実現させた企画力、洗練された構成力が芸術性を高めている点が特筆される●同様のことが音楽の世界にもあり、コンサートの進行にドラマ性を持たせ観客を惹きつける－、という演出方法が現在でもよく使われている。これは欧米ではオペラやミュージカル、日本では歌舞伎や文楽など、演劇と音楽をコラボさせた伝統的な手法があるため、決して不思議なことではない●しかし、どういうことか最近では似たような手法が政治の世界でも使われている。「劇場型」と呼ばれる現象で意図的に対立する構図を描き、政争にストーリー性を持たせ、世論の興味を必要以上にかき立てることだ。これを「〇〇劇場」などとメディアも興味本位を良いことに、煽るだけの無責任な報道ばかり●大切なのは価値観の本質であるのに、その核心である議論を離れ対立の構図だけをクローズアップし、どちらが良いか悪いかだけに特化した単純ゲームに仕立てる。中身が無く理解しやすいので居心地が良い分、一般受けするから性質が悪い●その最たる例が最近の都政だろう。築地もオリンピック問題もどう収束させるのか？仕舞い方が見えてこない。何やら不完全終止よろしく、曖昧に逃げ切るつもりか？政治は芸術ではないのだから、船頭さんが過去と追い風に拘ることを止め、しっかり進路を見定め、いい加減に前へ進むことを真剣に考えるべきだろう。何が都民ファーストだ！苦しむ当事者は置き去りか、オリンピックの準備も一向に進まない現状をどうするのか？都民だけの問題では済まないだろう。

新人スタッフ紹介

藤田　晶子 外来看護師
憧れの北海道生活を満喫！

今年度から仲間入りした藤田看護師は、「大自然の中で子どもたちを育てたい」という北海道愛が高じ、家族そろって京都から移住、本道で生活できることが「嬉しくてたまらない」という入れ込みよう。現在は市内のアパート暮らしも、すでに中古住宅を購入、ご主人が趣味の日曜大工を生かし藤田ファミリーカラーに改築中、完成次第移り住む。

北海道は海鮮系が美味しいイメージも「伊達は野菜がスゴイ！」と予想外の展開にビックリ。「憧れの北海道を満喫したい！」と夢を膨らませている毎日。

看護師歴は 12 年、救急医療での経験が長く「将来はスキルを生かし、伊達の地域医療に貢献したい」と目を輝かせ、「まずは専門医での知識を高めたい」と使命感に燃えている。

玉木　敦子 透析室看護師
患者様との関係を大切にしたい

今年１月から透析室に加わった玉木看護師は、看護歴 10 年目の中堅どころ。「以前は室蘭の総合病院で透析に従事していましたが患者様は急性期が多く、一時的な関わりがほとんど」「ここは定期的通院で繋がりが強く、その関係を大切にしたい」と今後の豊富を語る。休日の過ごし方は？の問いには「１人でのんびりしているのが好き」とマイペースな性格をアピールした。

高校時代は合唱部に所属していたことから音楽好きで、今後はバイオリンかギターを習ってみたい希望がある。機会があれば合唱にも再度チャレンジしたいそうだ。好きなアーチストは葉加瀬太郎で、ジブリミュージックが奏でる世界観も好きで良く聴くという。移り住んだ伊達の印象は「のどかな所が好き」と微笑んだ。

佐藤　和樹 透析室臨床工学技士
早く独り立ちしたい！

「とにかく早く仕事を理解し独り立ちしたい」と、新人らしいコメントの佐藤臨床工学技士。転勤族だった父親の関係で稚内、函館、札幌と道内各地をまわった。伊達の印象は「海が近いので好きな釣りをしたい」と、自然との触れ合いを楽しみにする。

臨床工学技士は高校生のとき関心をもったが「進路に迷い、とりあえず大学に進学した」と医療以外の道を歩むも、大学卒業後「やはり医療関係へ」と一念発起、進路変更で専門学校へ再入学した経歴を持つ。

「社会に役立ち、人のために尽くしたい」と、若干遠回りした分、強い使命感に燃えている。自分の考えを理解し、応援してくれた両親への感謝も忘れず、見るからに優しそうな雰囲気を持つ〝好青年、今後の活躍に期待したい。

樋江井　優 透析室臨床工学技士
透析の勉強で知識を積みたい！

新社会人として、当院に仲間入りした白老町出身の樋江井臨床工学技士。オープンキャンパスで見学した専門学校で、臨床工学技士に関心を持ち、医療の世界へ飛び込んだ。「一見、内気そうに見えますが基本的には明るいんです」とアピールするだけあり、話し出すと結構ノリが良いテンポ感があり、意外性のあるキャラクターが面白い。

伊達での生活には「親戚がいるので不安はありません」と、何の迷いも無いようだ。高校時代は吹奏楽部に所属し、オーボエを担当していた。ダブルリードが奏でるエキゾチックな音色のオーボエは、音程が一番安定しオーケストラのチューニングで指針となる楽器。「透析の勉強で知識を積み患者様に役立ちたい」と、院内でオーボエのような役割を目指す。

庄司　みか 透析室看護助手
安心できる医療の提供を！

今年２月に縁あって当院に就職、医療関係施設には 15 年程の経験があり、抵抗無く決断したというが「透析という専門的な仕事は経験したこともなく、不安はありますが一生懸命に頑張りたい」と毎日の業務に励んでいる。

「職場は医療に対する使命感や意識が高い職員ばかり、適切な指導もあり働きやすいです」と意欲的に動き回る。二女が看護学校へ進学したこともあり、医療への関心は高まるばかり。

以前にはホテル勤務のキャリアもあり、人と接することは苦にならず、「利用者様とのコミュニケーションも自然な対応を心がけている」という。「患者様には事故もなく、安心な医療を提供できるよう務めたい」と慢心することなく、常に緊張感をもった対応を心がけている。

熊原　真希 事務部スタッフ
完璧な電話対応を！

事務部に仲間入りしたのが今年２月、電話応対と往診の日程作成などを手がけている。室蘭で生まれ育ち、高校時代には陸上 400m で活躍、全道に出場するも準決勝で敗退「弱かったんです」と謙遜するも、全道毎回出場のスプリンターとして鳴らした。

結婚後苫小牧で暮らしていたが、子どもがサッカーを始めたのを機に「子どものためサッカー環境に優れた伊達に移住したい」と一念発起、本院への就職にもつながったという、かなり思い切った一面もある。

新しい職場には「良く接してもらいありがたい」と感謝し、様々な内容の電話応対に四苦八苦しながらも「所々教えてもらいながらなんとかやってます、完璧な電話対応を目指します」と、陸上で鍛えた粘り強さで頑張っている。

医療法人 社団 泌尿器科・血液透析 いぶり腎泌尿器科クリニック
■発行：いぶりぶ発行委員会
■発 行/平成29年4月10日■4月・7月・10月・1月の年4回発行
伊達市梅本町2番地15いぶり腎泌尿器科クリニック内 TEL0142-21-1400 FAX0142-21-1401
※本誌掲載の写真、記事の無断転用は固くお断り致します。
●発行責任者：横井　浩